

# 2017年3月期決算説明会資料

株式会社島津製作所

代表取締役社長 上田輝久

# 損益計算書

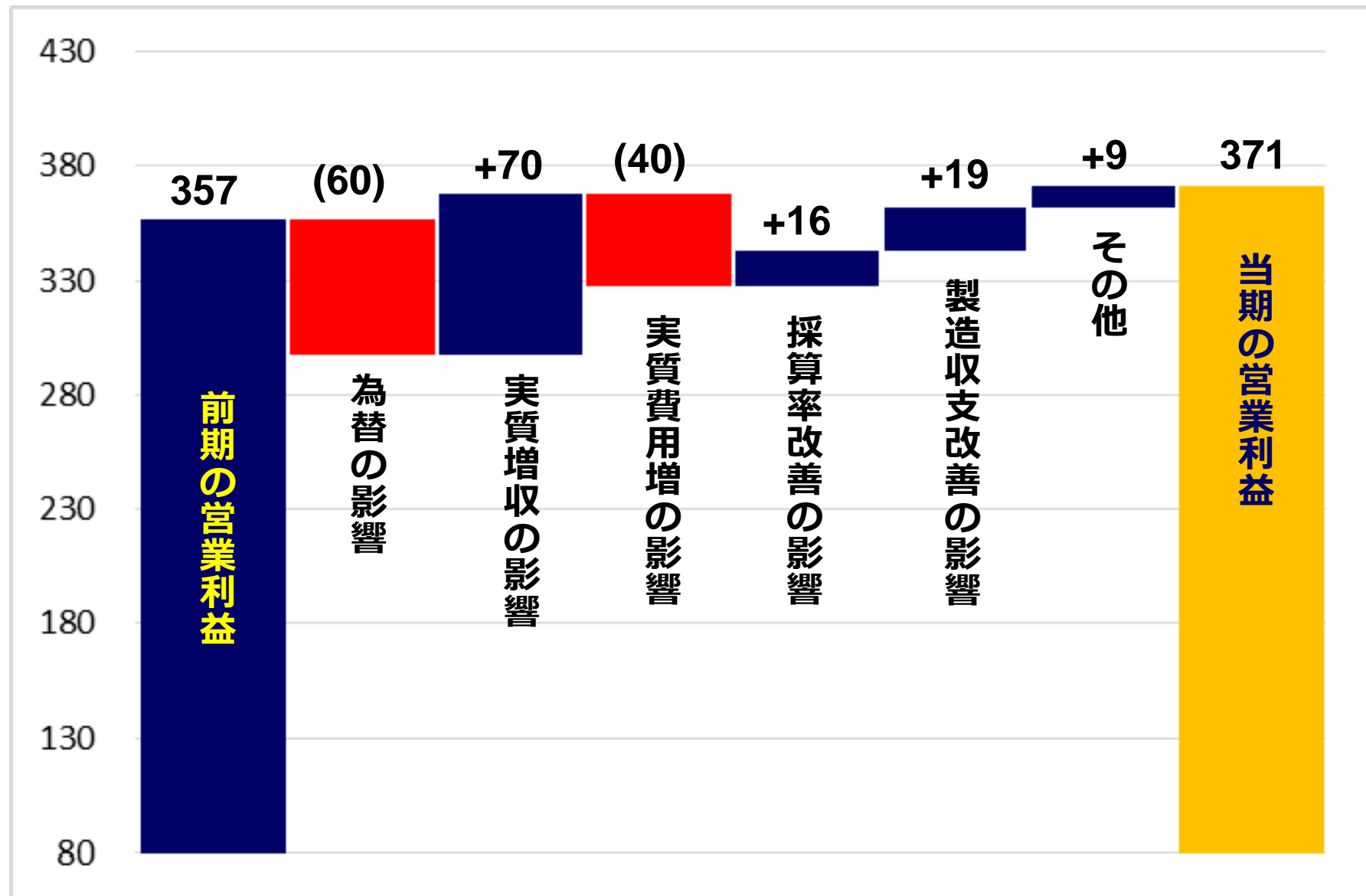
## －売上高から純利益まで「4期連続の増収増益」－

- \* 売上高は、前期比0.1%増で横ばい、為替影響を除くと実質約5%増加
- \* 営業利益は、前期比3.9%増、為替影響を除くと実質約21%増加
- \* 営業利益率は、前期比0.4ポイント改善、為替影響を除くと1.6ポイント改善

単位：億円，除く営業利益率，EPS	2017.3期	前期比増減			
		円ベース		除く為替影響	
		額	率	額	率
売上高	3,425	2	0.1%	172	5.0%
営業利益	371	14	3.9%	74	20.6%
営業利益率	10.8%	0.4ポイント改善		1.6ポイント改善	
経常利益	370	22	6.3%		
親会社株主に帰属する当期純利益	265	26	10.8%		
EPS	¥89.79	¥8.74	10.8%		
期中平均為替レート	US\$	¥108.43	(¥11.76)	-9.8%	
	€	¥118.84	(¥13.79)	-10.4%	
為替影響額					
売上高	(169)				
営業利益	(60)				

## 利益増減要因

億円



# 事業セグメント別損益

\* 全体の営業利益率は0.4ポイント改善、為替影響を除くと1.6ポイント改善、収益性の改善が着実に進む

\* 計測機器の営業利益率は前期比横ばい、為替影響を除くと1.1ポイント改善

\* 医用・航空・産業の事業セグメントでも収益性が向上

単位：億円

		2017.3期		前期比増減					
		額	営業利益率	円ベース			除く為替影響		
				額	率	営業利益率	額	率	営業利益率
計測機器	売上高	2,092	15.8%	8	0.4%	±0pt.	132	6.3%	1.1pt.
	営業利益	331		1	0.3%		44	13.4%	改善
医用機器	売上高	644	3.0%	(2)	-0.3%	1.4pt.	24	3.8%	2.7pt.
	営業利益	19		9	83.9%	改善	17	x2.6	改善
航空機器	売上高	267	2.9%	(21)	-7.3%	1.7pt.	(16)	-5.6%	2.2pt.
	営業利益	8		4	x2.2	改善	2	51.7%	改善
産業機器	売上高	362	7.4%	27	7.9%	0.8pt.	41	12.1%	1.8pt.
	営業利益	27		5	21.0%	改善	15	68.6%	改善
その他	売上高	60	11.8%	(9)	-13.0%	3.6pt.	(9)	-13.0%	3.6pt.
	営業利益	9		(4)	-30.3%	悪化	(4)	-30.3%	悪化
営業利益調整額		(23)	—	(2)			—		
合計	売上高	3,425	10.8%	2	0.1%	0.4pt.	172	5.0%	1.6pt.
	営業利益	371		14	3.9%	改善	74	20.6%	改善

# 計測機器/ サブセグメント売上高及び 製品・アフターマーケット売上高

- \* 前期比0.4%増、為替影響約124億円を除くと実質約6%の増収
- \* LC・MSは、為替影響を除くと約10%増と順調に拡大
- \* アフターマーケット事業は7億円増、比率は0.3ポイント増え27.8%に向上

単位：億円		2017.3期	前期比増減			
			円ベース		除く為替影響	
			額	率	額	率
サブセグメント	液体クロマトグラフ (LC)	566	10	1.7%	53	9.6%
	質量分析装置 (MS)	339	10	2.9%	36	10.8%
	ガスクロマトグラフ(GC)	203	(1)	-0.2%	12	6.3%
	その他	984	(10)	-1.0%	31	3.1%
合計		2,092	8	0.4%	132	6.3%
製品・アフター	製品	1,511	1	0.1%	98	6.5%
	アフターマーケット	581	7	1.3%	34	5.9%
	アフターマーケット比率	27.8%	0.3ポイント向上		—	
合計		2,092	8	0.4%	132	6.3%

## 医用機器/ サブセグメント売上高及び 製品・アフターマーケット売上高

- \* 前期比0.3%減、為替影響約27億円を除くと実質約4%の増収
- \* 強化機種種の血管撮影システムが、前期比11.2%増と大幅に拡大
- \* アフターマーケット事業は6億円増、比率は0.9ポイント増え30.3%に向上

単位：億円		2017.3期	前期比増減			
			円ベース		除く為替影響	
			額	率	額	率
サブセグメント	X線診断システム	474	(10)	-2.0%	13	2.7%
	X線撮影システム	233	(13)	-5.4%	(1)	-0.3%
	X線TVシステム	175	(3)	-1.7%	5	2.9%
	血管撮影システム	66	7	11.2%	8	14.0%
	その他	169	8	4.7%	11	7.1%
合計		644	(2)	-0.3%	24	3.8%
製品・ アフター	製品	448	(8)	-1.7%	13	2.9%
	アフターマーケット	195	6	3.0%	11	5.9%
アフターマーケット比率		30.3%	0.9ポイント向上		—	
合計		644	(2)	-0.3%	24	3.8%

## 航空機器/サブセグメント売上高

\* 前期比7.3%減、公表水準で着地

\* 民間航空機器事業は、B747-8の減産等の影響で減収

単位：億円	2017.3期	前期比増減			
		円ベース		除く為替影響	
		額	率	額	率
防衛	221	(8)	-3.4%	(8)	-3.4%
民間航空機	46	(13)	-22.4%	(8)	-14.1%
合計	267	(21)	-7.3%	(16)	-5.6%

# 産業機器/ サブセグメント売上高及び 製品・アフターマーケット売上高

\* 前期比7.9%増、為替影響約14億円を除くと約12%増収

\* 半導体・フラットパネル製造向けにターボ分子ポンプが34.1%増と大幅に拡大、  
産業機器セグメントを牽引

単位：億円		2017.3期	前期比増減			
			円ベース		除く為替影響	
			額	率	額	率
サブセグ メント	ターボ分子ポンプ	143	36	34.1%	43	39.9%
	油圧機器	116	2	1.5%	6	4.9%
	工業機器等	102	(12)	-10.2%	(8)	-7.4%
合計		362	27	7.9%	41	12.1%
製品・ アフター	製品	316	29	10.2%	43	14.8%
	アフターマーケット	45	(3)	-5.9%	(2)	-4.3%
アフターマーケット比率		12.5%	1.8ポイント悪化		—	
合計		362	27	7.9%	41	12.1%



## 地域別売上高

\* 海外は前期比4.4%減、為替影響を除くと約5%増。日本は約5%増、国内外で実質的に5%の成長を確保

\* 特に日本・中国・その他のアジアが好調に推移

単位：億円	2017.3期	前期比増減			
		円ベース		除く為替影響	
		額	率	額	率
日本	1,759	80	4.7%	80	4.7%
米州	425	(35)	-7.6%	10	2.1%
北米	380	(31)	-7.4%	11	2.6%
南米	45	(4)	-8.9%	(1)	-2.3%
欧州	249	(24)	-8.9%	5	1.7%
中国	561	0	0.0%	61	10.9%
その他のアジア	330	6	1.9%	31	9.7%
その他*	101	(24)	-19.5%	(14)	-11.5%
合計	3,425	2	0.1%	172	5.0%
海外売上高	1,666	(77)	-4.4%	92	5.3%

\* 「その他」：オーストラリア・中近東・アフリカ

## 地域別売上高/ 日本

- \* 計測機器：前期比5.0%増、製薬・分析業・食品等の分野でLC・MSが拡大
- \* 医用機器：前期比13.0%増、強化機種<sup>○</sup>の血管撮影システムが牽引し大幅に拡大
- \* 産業機器：前期5.6%増、ターボ分子ポンプ<sup>○</sup>が拡大

単位：億円	2017.3期	2016.3期	前期比増減	
			額	率
計測機器	914	870	43	5.0%
医用機器	373	330	43	13.0%
航空機器	221	229	(8)	-3.4%
産業機器	192	182	10	5.6%
その他	60	69	(9)	-12.9%
合計	1,759	1,679	80	4.7%

## 地域別売上高/ 北米

- \* 前期比7.4%減、為替影響約41億円を除くと実質約3%の増収
- \* 計測機器：6.7%減、為替影響約22億円を除くと実質約3%の増収。LCの拡大が持続
- \* 産業機器：8.3%増、為替影響5億円を除くと実質約20%と大幅に拡大  
大手半導体装置メーカーにTMP供給を拡大

単位：億円	2017.3期	前期比増減			
		円ベース		除く為替影響	
		額	率	額	率
計測機器	206	(15)	-6.7%	7	3.4%
医用機器	86	(7)	-8.0%	2	2.0%
航空機器	43	(12)	-21.3%	(7)	-12.7%
産業機器	45	3	8.3%	8	20.1%
合計	380	(31)	-7.4%	11	2.6%

## 地域別売上高/ 欧州

- \* 前期比8.9%減、為替影響約29億円を除くと実質約2%の増収
- \* 計測機器：6.7%減、為替影響約24億円を除くと実質約4%の増収  
MSを中心に、独・仏等で環境や食品安全で堅調に推移
- \* 産業機器：65.2%増、TMPが半導体製造やガラスコーティング向けに拡大

単位：億円	2017.3期	前期比増減			
		円ベース		除く為替影響	
		額	率	額	率
計測機器	209	(15)	-6.7%	9	4.1%
医用機器	25	(12)	-33.2%	(10)	-25.5%
産業機器	13	5	65.2%	6	84.3%
合計	249	(24)	-8.9%	5	1.7%

## 地域別売上高/ 中国

- \* 前期比横ばい、為替影響約61億円を除くと実質約11%の増収
- \* 計測機器：1.4%増、為替影響約48億円を除くと実質約12%の増収  
LC・MSが牽引し、官・民ともに好調に推移
- \* 医用機器：1.7%減、為替影響約7億円を除くと実質約9%の増収  
多目的X線TVシステム・血管撮影システムが好調に推移

単位：億円	2017.3期	前期比増減			
		円ベース		除く為替影響	
		額	率	額	率
計測機器	441	6	1.4%	54	12.4%
医用機器	60	(1)	-1.7%	6	9.0%
産業機器	60	(5)	-7.5%	2	2.5%
合計	561	0	0.0%	61	10.9%

## 地域別売上高/ その他のアジア

\* 前期比1.9%増、為替影響約25億円を除くと実質約10%の増収

\* 計測機器：2.2%増、円高影響20億円を除くと実質約11%の増収

インドの製薬・CRO等でLCが、東南アジアの自動車分野で試験機が拡大

\* 産業機器：34.0%と大幅に増加、半導体・FPD製造向けにTMPが韓国で拡大

単位：億円	2017.3期	前期比増減			
		円ベース		除く為替影響	
		額	率	額	率
計測機器	237	5	2.2%	25	10.9%
医用機器	43	(11)	-20.4%	(7)	-13.5%
産業機器	48	12	34.0%	13	36.0%
合計	330	6	1.9%	31	9.7%

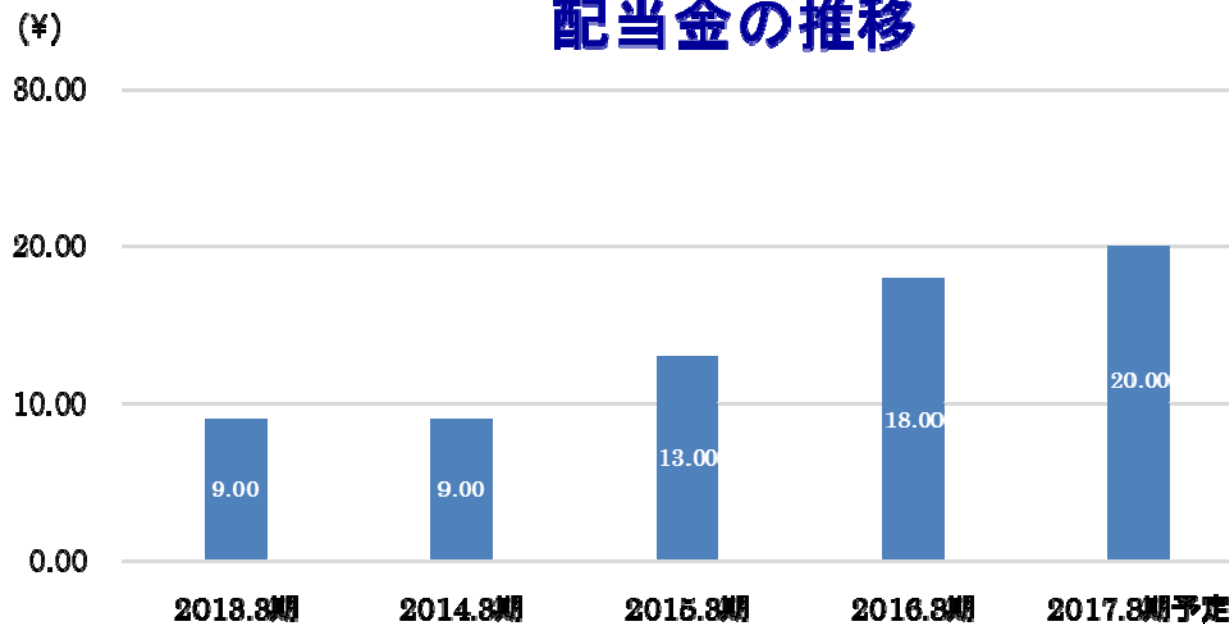
## 配当金・配当性向

＊ 期末配当金1株10円を予定

＊ 当期の年間配当金は前期より2円増配の1株20円を予定

	2017.3期		2016.3期		前期比 年間
	中間期	期末予定	中間期	期末	
一株当り配当金	¥10.00	¥10.00	¥9.00	¥9.00	¥2.00
配当性向	22.3%		22.2%		0.1ポイント増

### 配当金の推移



## 2018年3月期/ 事業環境見通し

<p>日本 +0.8%</p>	<p>高齢化加速への対策や老朽化設備の更新など広く社会インフラを補強するための投資、また企業の生産性向上に係る投資など、官民での底堅い需要が見込まれる  <b>〈リスク〉 東アジア情勢の緊張、円高による企業投資マインドの減退</b></p>
<p>米国 +2.3%</p>	<p>新政権による社会インフラ、エネルギー分野等での投資による内需の拡大、また最先端分野での高水準の研究開発に関する需要が見込まれる  <b>〈リスク〉 政策の停滞、保護主義的政策、ドル安誘導</b></p>
<p>欧州 +1.6%</p>	<p>ロシア経済の停滞継続が見込まれるものの、ドイツ・フランス等の西側地域での底堅い需要が見込まれる  <b>〈リスク〉 中東難民や政権交代による不安定化</b></p>
<p>中国 +6.5%</p>	<p>第13次五カ年計画が本格的に始動、安心安全な社会に向けた投資や学術・産業の高度化を目指した研究開発投資など、旺盛な需要が見込まれる  <b>〈リスク〉 過剰投資による余剰設備など、固定資産の調整にともなう設備投資の停滞</b></p>
<p>アジア ASEAN +4.9% インド +7.2%</p>	<p>東南アジアでの各国政府の景気刺激や医療福祉投資、また外資企業による電機・自動車等の設備増強投資が見込まれる  <b>〈リスク〉 米国利上げにともなう通貨安の影響</b></p>

※各国・地域の下段の数字は、IMFによる2017年GDP成長率予想(2017.1公表)



## 2018年3月期/ 業績予想

＊積極的な研究開発・設備投資を予定、着実な業績を計画

＊5期連続の増収増益を目指す

単位：億円, 除く営業利益率, EPS	2018.3期予想	2017.3期	前期比増減		
			円ベース		
			額	率	
売上高	3,550	3,425	125	3.7%	
営業利益	380	371	9	2.5%	
営業利益率	10.7%	10.8%	0.1ポイント悪化		
経常利益	380	370	10	2.6%	
親会社株主に帰属する当期純利益	270	265	5	2.0%	
EPS	¥91.58	¥89.79	¥1.79	2.0%	
期中平均為替レート	US\$	¥105.00	¥108.43	(¥3.43)	-3.2%
	€	¥115.00	¥118.84	(¥3.84)	-3.2%

## 2018年3月期/ 事業セグメント別業績予想

\* 計測・医用・産業で増収増益を計画

\* 航空は黒字の定着と収益体質の改善に取り組む

		2018.3期予想		前期比増減		
		額	営業利益率	額	率	
計測機器	売上高	2,180	15.9%	88	4.2%	0.1pt.
	営業利益	346		15	4.7%	改善
医用機器	売上高	650	3.5%	6	1.0%	0.5pt.
	営業利益	23		4	19.7%	改善
航空機器	売上高	260	1.2%	(7)	-2.7%	1.7pt.
	営業利益	3		(5)	-61.3%	悪化
産業機器	売上高	390	7.7%	28	7.9%	0.3pt.
	営業利益	30		3	12.4%	改善
その他	売上高	70	10.0%	10	17.1%	1.8pt.
	営業利益	7		(2)	-20.6%	悪化
営業利益調整額		(29)	—	(6)	—	
合計	売上高	3,550	10.7%	125	3.7%	0.1pt.
	営業利益	380		9	2.5%	悪化

単位：億円

# 事業戦略 ～事業戦略／事業ポートフォリオ～

- 成長戦略 : 計測は更なる成長を目指す  
ヘルスケア事業戦略ユニットを設立し、分析-医用融合事業を加速
- 収益力強化 : 中長期的に計測は営業利益率20%以上、他事業は10%以上を実現
- 再構築事業 : 収益力強化を最優先として、製品の選択と集中、用途拡大のための応用開発力の強化などに取り組む

成長

重点事業  
【計測】

【計測】

- LC・MSへの重点投資と強化業種の収益力強化
- 新規消耗品を含むアフターマーケット事業の拡大
- 製品ラインナップの拡充による事業拡大

分析-医用融合

ヘルスケア事業  
戦略ユニット新設

【医用】

収益改革事業  
【産業機器】

【医用】

- 治療機種を中心とした製品ラインナップ拡充と海外事業拡大
- 製品の利益率向上と収益力の高いサービス事業拡大

【産業機械】

- TMP機種の強化とサービス事業強化による収益改革
- 油圧機器の海外業績拡大と製造基盤の強化による収益改革

収益力

再構築事業  
【航空】

【航空】

- 民航事業での成長による安定的な黒字体質の構築
- 防衛事業の内容見直しと再構築

## 計測機器事業戦略

## - 重点機種・アフターマーケット事業 -

方針

- ① **新製品** : 製品ラインナップの強化・拡大 (全自動化、新規前処理システム、専用アナライザなど)
- ② **既存製品** : 応用分野の拡大 (イノベーションセンターを中心とした外部との共同開発の推進)
- ③ **ネットワークシステム** : (統合ネットワークシステムのコンセプト推進)
- ④ **アフターマーケット** : 試薬・消耗品の拡大、サービス事業の強化 (マルチベンダーサービスなど)

LC



MS



GC



UV



FTIR



EDX

ネットワークシステム **LabSolutions**

\* 統合ネットワークシステムのコンセプト推進

分析データシステム ER/ES関連規制対応  
Progress Configuration of LabSolutions System  
**LabSolutions**  
ネットワーク時代の革新的な分析操作環境  
における情報の保全と共有を目指した  
完全なデータ管理システムを提供します。

LabSolutionsの  
ER/ES規制対応

LabSolutionsの  
マルチベンダー対応

LabSolutionsの  
マルチデータレポート

総合的な分析データネットワーク  
をサポート CLASS-Agent

アフターマーケット事業 **LabTotal**

- \* 試薬・消耗品事業のM&Aも含めた強化・拡充
- \* マルチベンダーサービスの拡大



# ESGへの取り組み

- 「島津の企業理念・強み」の視点で「持続可能な開発のための目標（SDGs）」から島津にとって優先順位の高いテーマを選定し、ステークホルダー（顧客・株主/投資家・取引先・従業員・地域社会など）と共に持続的成長に取り組む

島津の企業理念・強みを基礎に、社会の持続可能な発展に貢献



## 環境経営：環境保全と利益創出を同時実現

- 中計最終年度目標  
エコプロダクツ\*1によるCO2排出抑制貢献量  
≥ グローバルCO2排出量  
エコプロダクツPlus\*2売上高 500 億円 以上
- グリーンイノベーション事業\*3の拡大
  - \*1：環境配慮型製品
  - \*2：環境配慮型製品の内、省エネ、小型化、消耗品削減など大幅に環境負荷低減を実現した製品
  - \*3：「計測セグメントの環境計測事業及び環境分析サービスなど環境関連事業」のこと

## 働き方改革・ダイバーシティ

- 介護・子育て支援などに向けてテレワークを導入
- 女性活躍推進（女性管理職を現在の2.5倍以上に）

## 健康経営：「島津ヘルスケア倶楽部」

- 従業員に自社の分子診断技術・医用技術を用いた健康診断を無償で提供（大腸がん・乳がんなど）
- ウェアラブル端末を用いた健康管理システムの導入により従業員個々の疾病リスクの低減

# 企業価値向上への取り組み

## JPX日経インデックス400

企業価値

### JPX日経インデックス400構成銘柄に選定

(2016.8)

→JPX日経インデックス400は、グローバルな投資基準に求められる諸条件を満たした企業を選定する目的で、2014年から算出を開始した指数



## 健康経営優良法人 ホワイト500

健康経営

### 健康経営優良法人 ホワイト500に認定

(2017.2)

→健康経営優良法人ホワイト500は、経済産業省が日本健康会議と共同で、優良な健康経営の施策を実施している大規模法人を認定する制度



## 2016年度 なでしこ銘柄

女性活躍

### 2016年度の「なでしこ銘柄」に選定

(2017.3)

→経済産業省と東京証券取引所は、全上場企業約3,500社の中から、業種ごとに、女性が働き続けるための環境整備を含め、女性活躍を積極的に推進する企業を「なでしこ銘柄」として選定



## ハビタット評価認証

環境経営

### ハビタット評価の最高ランクAAA評価を取得

(2015.5)

→「島津の森」が、生物多様性の保全・回復への取り組みを客観的に評価されハビタット評価認証の最高ランクであるAAA評価を取得





本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。